

11. 沖縄（地域別調査機関：（財）南西地域産業活性化センター）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

| 分野 | 景気の現状判断 | 業種・職種 | 判断の理由 | 追加説明及び具体的状況の説明 |
|-----------------|-----------------------------------|--------------------|---|---|
| 家計 動向 関連 | 良く なっている | - | - | - |
| | やや良く なっている | 家電量販店（総務担当） | 販売量の動き | ・テレビの台数の伸び率が高くなっている。地上デジタル放送の本格普及が始まった印象を受ける。 |
| | 変わらない | 一般小売店〔衣料品・雑貨〕（経営者） | 販売量の動き | ・売上高の前年同月比が86%と減少傾向が続いている。来店者数はほとんど変わらないが、購入者が確実に減少しているため売上につながらない。 |
| | | コンビニ（エリア担当） | 来客数の動き | ・既存店の年末商材（クリスマスケーキ等）は前年並みであるが、売上全体は前年割れが続く店舗が多い。固定客はいるが、流動客が確実に減っているのが原因である。タバコは前年並み、ドリンクや菓子が前年割れといった実績が流動客離れの裏付けとなる。 |
| | やや悪く なっている | 観光型ホテル（商品企画担当） | 販売量の動き | ・12月、1月とほぼ前年並みの動向で推移している。 |
| | | 観光型ホテル（営業担当） | 販売量の動き | ・季節的には旅行シーズンではないが、宿泊部門もまずまずの売上で会社全体でも売上目標を達成できる。 |
| | | 通信会社（店長） | 来客数の動き | ・12月は需要期だが、今年は例年よりも来客数、販売数共に減っている。 |
| | | ゴルフ場（経営者） | 来客数の動き | ・利用客の減少傾向がみられる。 |
| | 悪く なっている | 百貨店（担当者） | 単価の動き | ・前年は異常な暖冬に苦戦をした。本年は気温こそ例年並みとなるが、県内企業、官庁等のボーナス支給日とセールの日ずれや、連日のマスコミ報道のある原油高騰による商品単価アップの影響からか、客に生活防衛感による買い控え、客単価ダウンがみられ、特に衣料においてその影響が顕著となり衣料計にて前年比で8~9%のダウンとなる。ただし食品、家庭用品においては前年実績を維持しており、特にお歳暮ギフトにおいては本年も好調で最終的には5%の増加を見込む。 |
| | | コンビニ（経営者） | お客様の様子 | ・買物客の様子が暗く感じられる。買物をするこに對して、慎重な様子がうかがえる。 |
| その他専門店〔楽器〕（経営者） | | 販売量の動き | ・毎月、売上高の前年割れが続いている。競争相手の増加と価格競争があり、市場が変化している。市場が求めるのは「本物」と「信用」もしくは「価格」なのか、それとも両方なのか、見えないが、打つ手を考えなければならず、厳しい環境である。 | |
| 悪く なっている | 観光名所（職員） | 来客数の動き | ・施設利用者数は、3か月前の平成19年9月は前年同月比122.2%であった。今月は12月24日現在で112.1%と低い伸びとなっている。10月以降の施設利用者数は伸び悩んでいる状況で、沖縄への入域観光客も前年度と比べ低い伸びになる。来園者は、一般団体、修学旅行等団体が中心である。 | |
| | その他専門店〔書籍〕（店長） その他飲食〔居酒屋〕（経営者） | 販売量の動き 来客数の動き | ・年末の繁忙期にもかかわらず、販売量自体が前年よりも大分落ちている。客は必要最低限の商品しか買わない。衝動買いがほとんど見受けられない。 ・12月は一番期間中の変動が大きい月であるが、例年に比べて平日の来客数が25%、週末で10%減少している。今年は低迷が予想されたので、例年より1か月早く忘新年会チラシを配り、毎日チケット外商をしてこの結果なので深刻である。 | |
| 企業 動向 関連 | 良く なっている | - | - | - |
| | やや良く なっている | - | - | - |
| | 変わらない | 輸送業（営業担当） | 競争相手の様子 | ・競争相手も含め取扱物量自体は微増傾向にあるが、荷主の物流コスト削減の波は依然として続いている。取引先自体もメーカーからの仕入金額値上が続いていることや、各業界での原油高騰による収益悪化が世間一般的に認知されるなか、料金値上げのタイミングを探っている状況である。 |
| | 会計事務所（所長） | 受注量や販売量の動き | ・公共事業が大幅に減少し、工事受注量が減少している。 | |

| | | | | |
|-----------|-----------|---------------------|--|--|
| | やや悪くなっている | | | |
| | 悪くなっている | | | |
| 雇用 関連 | 良くなっている | - | - | - |
| | やや良くなっている | 人材派遣会社 (経営者) | 求人数の動き | ・11月末から派遣依頼が急に増加している。ほとんどは現ユーザーの追加依頼や過去のユーザーからの再依頼であるが、業種が幅広く、地域も広範囲からの依頼で面白い状況である。 |
| | 変わらない | 学校[専門学校] (就職担当) | 求人数の動き | ・新規求人数はほぼ横ばい傾向である。第2、3次募集の既存求人が目立つ。 |
| | | 学校[大学] (就職担当) | 求人数の動き | ・まず、県内の経営者が来年の景気を弱気に見ている傾向が出てきており、求人の様子見につながっている。続いて、4年生はほぼ就職活動が終了し、3年生は少し時期が早いということから、求人活動が若干躍り場的な状況にある。 |
| | やや悪くなっている | 求人情報誌製作 会社(営業担当) | 周辺企業の様子 | ・企業の中でも、淘汰・格差が表面化している。大手と中小零細との開きも大きい。それなりの差別化とコンプライアンス面を重視している中小零細企業は見通しも明るいが、ニーズに出遅れがちな企業は衰退傾向がより強まっている。 |
| 職業安定所(職員) | | 求人数の動き | ・11月の新規求人は前年比で今年初めてプラスに転じているが、常用求人はマイナスである。また、県内就職が前年比で2か月連続プラスであるが前月比はマイナス、就職数としては前年比、前月比ともマイナスである。 | |
| | 悪くなっている | - | - | - |